

## 誰が悲劇を招いたのか？ (『オテロ』)

経営システム工学科1年 大野 優奈

最後の結末でデズデーモナは亡くなることになる。

このような悲惨な結果を招いた原因は何か？

まず一つにヤーゴの行為があげられる。

ヤーゴは自分を追い越して出世し副官となったカッシオを憎むとともに、出世を決めたオテロのことも恨んでいる。カッシオを落としいれるため、ロデリーゴを使い、酒で酔わせ任を解かせた。また、オテロには妻のデズデーモナが不倫をしたという嘘の話を作り出し、その話をオテロに信じ込ませるといふ卑怯な手を使い、ひどい仕打ちをした。もし、このような仕打ちをしていなかったら、オテロとデズデーモナの愛を壊すこともなく、デズデーモナが命を落とすこともなかったと思われる。

オテロはどうだったか？

オテロの性格は切れやすく、ちょっとしたことで人に当たってしまうところがあったと思う。ヤーゴから伝えられたカッシオとデズデーモナの不倫、ハンカチの証拠で妻のデズデーモナの首を絞めた。しかし、オテロの性格が大人だったら、このような悲惨な事態を起こさずに済んだと思う。かっとならずに対応し、冷静でいられたら、ヤーゴが仕組んだ罠だということに気が付くことができたと思う。また、デズデーモナの首を絞める前にデズデーモナが必死になって訴えかけていた言葉に耳を傾けることもできたと思う。デズデーモナの言葉を聞けなかったのは、性格上の問題もあるが、デズデーモナのことを心から愛しきれていなかったことの表れだと考えることもできる。最後、デズデーモナが亡くなりすべてを知った時、初めて心から愛せたのかもしれない。

ロデリーゴはどうか？

ロデリーゴは一幕でヤーゴにデズデーモナを奪えるかもしれないとそそのかされる。しかし、○本当にデズデーモナのことが好きなら、結婚したばかりの夫のことをすぐ飽きるような女でないと思っしてほしい。また、たとえ夫に飽きたとしても、自分がヤーゴの肩を持ったと知れば嫌われることも考えておかなければならない。ロデリーゴは本当にデズデーモナを愛しているなら正々堂々

と戦ってほしかった。また、最後にヤーゴの悪行を告白するのももう少し早くすれば、愛するデズデーモナを失うこともなかった。

カッシオはどうか？

カッシオはオテロに認められ副官となっていることから、オテロのことはよく知っている。また、○ヤーゴが自分のことを憎んでいることは、追い越して出世した時に気が付けたはずだ。○そんなヤーゴに勧められて酒を飲みすぎたり、オテロの妻であるデズデーモナに取り持ってもらおうと考え、会うことが畏だと気づかないのは愚かだったと思う。

エミーリアの行為は関係しているか？

エミーリアはデズデーモナから相談を受ける仲だった。殺される前にもオテロのことを相談していて、別れの言葉に聞こえることまで言っている。それにも関わらず、デズデーモナのハンカチをヤーゴに渡したこと、それを誰にも報告しなかったことは許されないと思う<sup>1</sup>。しかし、その後、夫であるヤーゴを裏切り悪行を告白する点を見ると、ハンカチをヤーゴに渡したことがこのような大きな問題に関係があったということに気が付かなかったのかもしれない。また、この告白からエミーリアとヤーゴの夫婦間は深いものでなく、すぐに夫を裏切ることができるような仲だったように見える。もっと夫婦感が深い関係だったらヤーゴの悪行に気が付きこのような事態を事前に食い止められたのではないかと思う。

前期でレポートを書いたランメルモールのルチア同様、一番の責任はヤーゴにあるが、○その他の人も大きく関わっていることがわかる。全員がデズデーモナを裏切る結果となっている。もし一人でもデズデーモナのことを一番に考えることができればこの死を免れることができたと思う。デズデーモナのことを心から愛せていた人が誰一人いなかったという結果だと思う。○自分のことを一番に考えるのではなく、友達でも恋人でも心の底から愛すのはとても難しく、本当に愛しているかどうか気づくのはもっと大変なことだと改めて感じた。

---

<sup>1</sup> うーむ。難しいところ。エミーリアは2幕でヤーゴを「悪党」と呼んでいて、ヤーゴの本性を知っていた。しかし「俺が怖くはないのか」と威嚇されている。そもそもデズデーモナの異常な状態とハンカチとの関連を予想することはできなかったのではないか。むしろエミーリアの落ち度は、夫ヤーゴが副官に取り立てられなかったことで、オテロを恨み、カッシオを憎んでいることを、妻として把握していなかった点にあるのでは。